

平成29年11月 2 日

## 果実生育定期調査から読み取れる特徴と今後の管理

### 1 リンゴ

県南部では「王林」、「ふじ」とも果実肥大は概ね平年並みとなっている。「ふじ」はリンゴ酸含量は平年より低い、硬度の低下およびデンプンの消失程度（データ未掲載）が平年並みであることから、収穫始めは平年並みの11月10日頃と予想される。

県北部の果実肥大は「王林」は平年を下回り、「ふじ」は平年並みである。いずれもリンゴ酸含量は高く、硬度は平年よりやや高い。また、デンプンの消失がやや遅れている。これらのことから成熟はやや遅れていると思われ、収穫始めは平年並みからやや遅れると見込まれる。「秋田紅あかり」はリンゴ酸含量が平年より高いが、糖度と硬度は平年並であり10月末から着色が進んだことから、現在、収穫期に入ったものと推測される。

ここ数年、11月中旬の降雪により、枝折れ、落果、果実の凍結などの被害を受けてきた。着色やみつ入りを期待して収穫期を遅くすると被害の危険度が高まるので、天気予報を注視して収穫を終えるようにする。

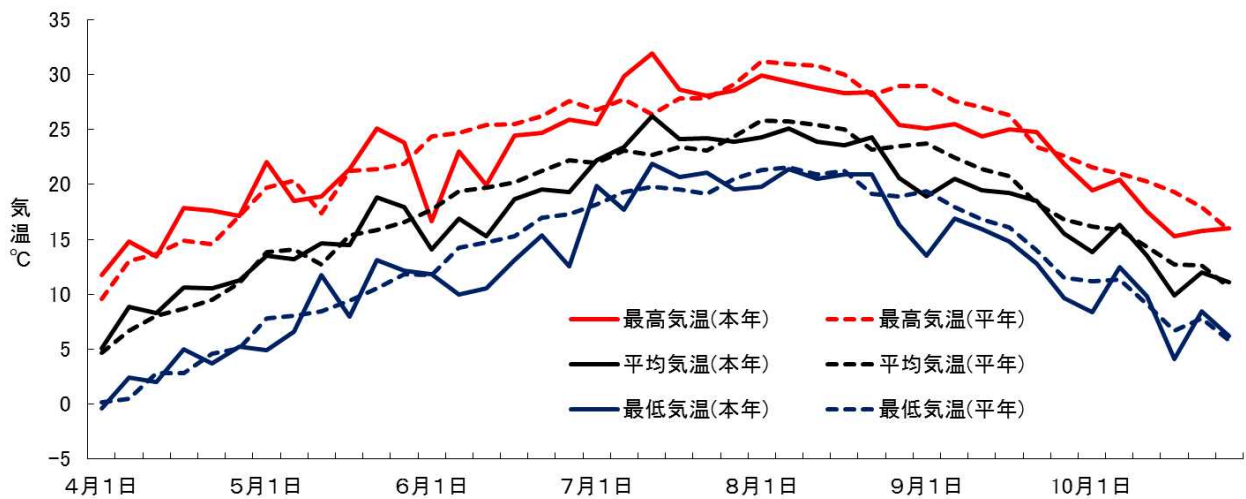


図1 最高・平均・最低気温と平年比較（果樹試験場本場）

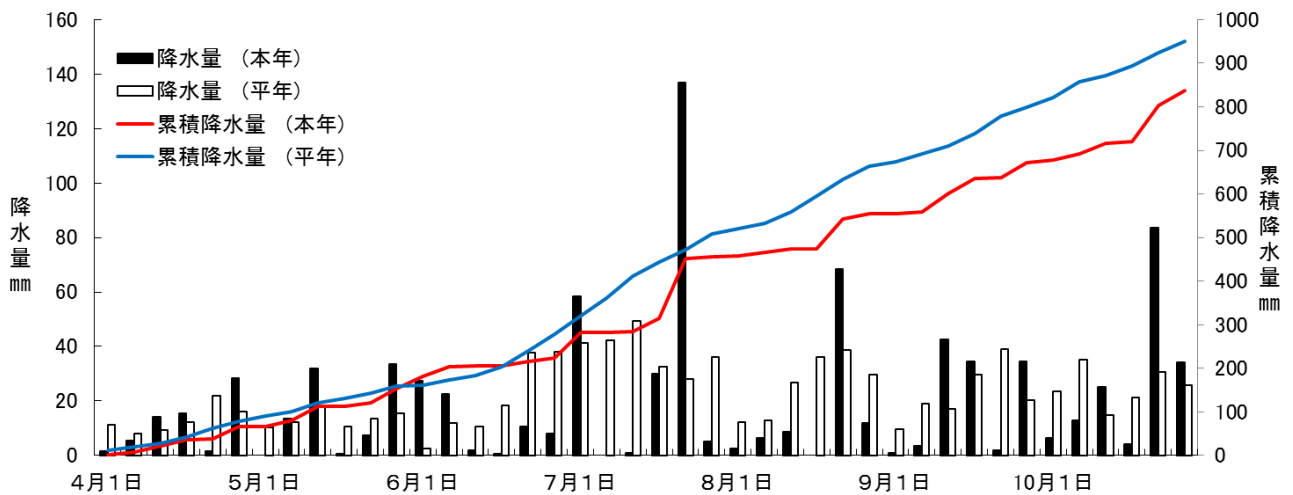


図2 降水量と累積降水量の平年比較（果樹試験場本場）

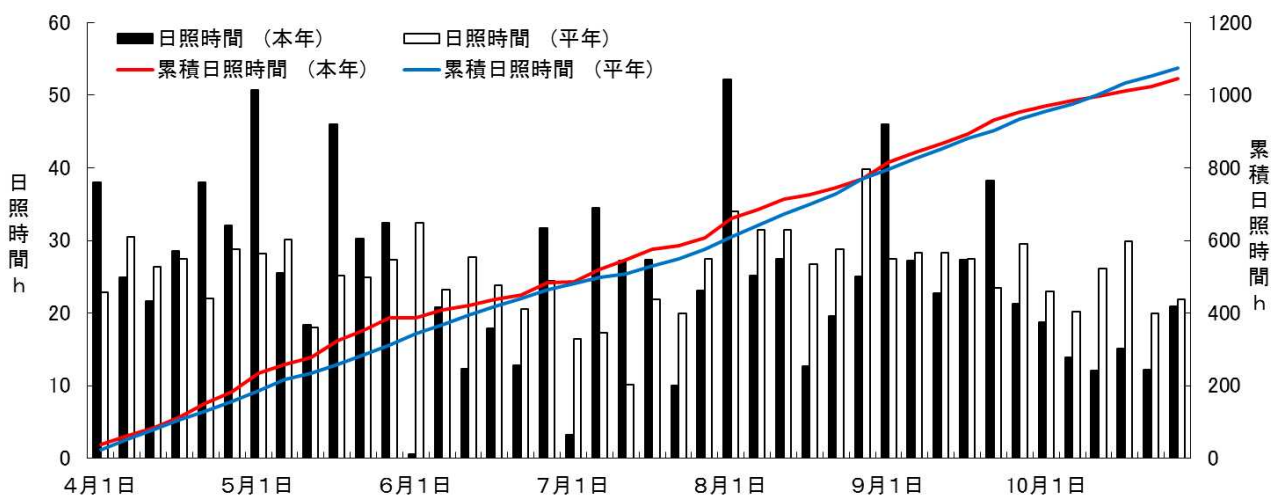


図3 日照時間と累積日照時間の平年比較（果樹試験場本場）